グローバルサイエンスキャンパス（GSC）
令和４年度全国受講生研究発表会　審査の方法について

- GSC の事業概要 -

１．事業趣旨

GSC は、将来グローバルに活躍し得る次世代の傑出した科学技術人材を育成するため、地域で卓越した意欲・能力を有する生徒の幅広い発掘と、選抜者の年間を通じた高度で実践的な育成を行い、将来有為な国際的科学技術人材として必要な能力を獲得させ、その意欲、能力を更に伸ばしていくことを目的とする。

２．採択機関（GSC「情報科学の達人」育成官民協働プログラムを含む）

平成 31 年度：宇都宮大学、東京大学、広島大学、国立情報学研究所
令和２年度　：千葉大学、金沢大学
令和３年度　：名古屋大学、神戸大学
令和４年度　：慶應義塾大学、静岡大学、島根大学、琉球大学

３．事業の企画実施期間、JST からの支出費用

事業の企画実施期間は最大４年間、１機関あたり年間 2,500 万円～3,000 万円程度を支出する。

４．GSC 推進委員会（本発表会においては審査委員会）

委員長	大路 樹生	名古屋大学　特任教授
副委員長	隅田 学	愛媛大学教育学部 教授
	伊藤 哲史	京都大学大学院理学研究科　准教授
	瓜谷 輝之	株式会社日本ヒューレットパッカード経営企画本部 政府・公共渉外　統括部長
	大倉 典子	芝浦工業大学 SIT 総合研究所　特任教授
	西嶋 美保子	アメリカン・エキスプレス・インターナショナル，inc. 政策渉外担当ディレクター
	西本 昌司	愛知大学法学部　教授
	野村 和弘	学校法人河原学園　未来高等学校　校長
	福田 公子	東京都立大学理学研究科　准教授

（令和４年４月１日時点）

5. 参加機関：15 機関程度
・「２．採択機関」に記載の 12 機関
・過去に採択された機関で参加を希望した機関：3 機関程度
※上記参加機関は全て審査・表彰の対象です。

6. 審査員
一次審査では、各実施機関より審査員を 4 名程度選出し、審査委員会と協働して一次審査を行う。ただし、審査員と利害関係にある機関（または受講生）の審査は行わない。
なお、二次審査は審査委員会のみで審査、各賞の選定を行う。

7. 表彰
優れた成績を収めた受講生に対し、文部科学大臣賞、科学技術振興機構理事長賞、審査委員長特別賞および優秀賞を授与する。
※いずれの賞も共同研究者がいる場合は、共同研究者にも授与される。

・最優秀賞（文部科学大臣賞）
研究内容、口頭発表に鑑み、最も優れた成績を収めた受講生に授与される。(1 件)

・科学技術振興機構理事長賞
研究内容が科学技術の発展に寄与するものであるとともに、研究への取組や口頭発表におけるプレゼンテーションに工夫や努力が認められる、特に優れた成績を収めた受講生に授与される。(1 件)

・審査委員長特別賞
GSC 事業趣旨に鑑み、審査委員長の判断に基づき、優れた研究成果・成績を収めた受講生に授与される。　(2 件)

・優秀賞
研究内容、プレゼンテーションに鑑み、優れた成績を収めた受講生に授与される。(6 件程度)

8. 審査方法

◆一次審査：令和 4 年 10 月 16 日（日）

・審査委員会および審査員によって審査を行い、二次審査対象者を選定する。

・研究発表件数は、1 機関あたり 4 件以内とする。

・プレゼンテーションソフト（PPT 等）を使った口頭発表および質疑応答をオンライン（ライブ）で実施し、その内容と、研究成果の要約およびエントリーシートにより、審査を行う。なお、エントリーシート、審査要領、評価表は審査員にのみ別途送付する。

・発表時間は 10 分間、質疑応答は 10 分程度とする。

・プレゼンテーション資料は英語で作成する。ただし、発表および質疑応答に用いる言語は日本語または英語（任意）とする。

・審査割り当てについては、専門分野や希望等を考慮のうえ事務局にて決定する。

・各発表に対して 5 名程度の審査員が独立に研究内容および発表内容について審査し、各審査員は評価シート（別添）の評価項目欄に要素点を記入する。要素点は以下に示す 5 段階で行う。

（要素点）

5 ：優れて達成している

4 ：やや優れて達成している

3 ：概ね達成している

2 ：やや達成が不十分

1 :全く達成できていない

・各評価項目欄に記入された要素点の合計をもって、当該研究発表の得点とする。各審査員が独立に審査した得点の平均点をもって当該研究発表の審査基準点とする。

・審査委員会は、原則として審査基準点が 3.0 以上を満たす得点の高いものについて合議のうえ、10 件程度の二次審査対象者を選定する。

・二次審査対象者は、令和 4 年 10 月下旬に発表する。

◆二次審査：令和 4 年 11 月 6 日（日）

・審査委員会によって審査・合議を行い、二次審査対象者から各賞の選定を行う。

・発表時間は 10 分間、質疑応答は 5 分間程度とする。発表および質疑応答に用いる言語は日本語または英語（任意）とする。

・二次審査対象者は原則として発表会会場（JST 東京本部別館）にて口頭発表を行う。ただし、来場が難しい場合はオンラインでの発表も可とする。

以上

審査員番号:〇〇

評価表

グローバルサイエンスキャンパス令和4年度全国受講生研究発表会

（実施機関）　　審査員:

発表番号 研究テーマ		

評価のカテゴリー		観点	評価	【コメント記入欄】※発表者にフィードバックします。
目的・意義	研究の目的	・研究の目的が明快であり、かつ自分なりの独創的な視点が含まれている。	/5	
	研究の背景・意義	・研究の学問的・社会的意義や位置づけをよく理解できている。	/5	
方法・取り組み	方法	・適切な実験、観察、調査等が計画されており、方法に創意工夫が認められる。 ・（チーム研究の場合）チームメンバーの強み・個性が活かされ、分担あるいはシナジーによるプラスの効果が発揮できている。	/5	
	取り組み	・課題や困難な点に、粘り強く、柔軟かつ自立的に取り組んでいる。	/5	
結果と考察・成果	考察	・得られたデータや結果に基づき、論理的、多角的かつ深い考察ができている。	/5	
	成果	・新たな発見・発明や独自の研究方法の開発など、学問分野やテクノロジーあるいは社会への貢献が認められる。	/5	
発表	発表	・研究内容のポイントがよく整理され、わかりやすい発表ができている。 ・ルールに従った資料の作り方をしっかり踏まえている。研究倫理や生命倫理（対象分野のみ）に配慮している。	/5	
	今後の発展性	・挑戦的な研究テーマに取り組んでいる。 ・研究の内容が独創的あるいは極めて高い水準に達している。 ・国際的に活躍する次世代の傑出した科学技術人材として期待される。	/5	
【5段階評価の基準（絶対評価）】 5:優れて達成している　4:やや優れて達成している　3:概ね達成している　2:やや達成が不十分　1:全く達成できていない			0 /40	